

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立双葉西小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は、全国を上回っており、一定の定着がみられます。特に「話すこと・聞くこと」では、目的や意図に応じて日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討することや、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることについての正答率が高かったです。また、「情報の扱い方に関する事項」では、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかにおける知識が定着しています。一方で、「読むこと」では、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題が見られます。
- ・算数の平均正答率は、全国より若干下回っていますが、知識・技能が身に付いています。特に「データの活用」は、目的に応じて適切なグラフを選択して判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することが、全国より上回っています。一方で、「変化と関係」の分野では、割合の意味を解釈することに課題がみられます。
- ・理科の平均正答率は、全国を上回っています。「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする領域すべてにおいて、定着がみられます。また、選択・短答・記述、いずれも全国平均を上回っており、さまざまな回答形式に対応できています。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
ＩＣＴ機器の使用頻度について「ほぼ毎日」と答えた割合が高く、学習活動の中でＩＣＴ機器が活用されていることが分かります。それに伴い、情報を整理することや文章を作成する力など、ＩＣＴ機器活用能力の高まりが表れています。また、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法をきめていることについて「当てはまる」と回答した児童の割合が高く、合意形成をもとにした学級づくりが行われていることが分かります。
- ・課題となる項目
「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童の割合が全国平均を下回っています。しかし、「自分にはよいところがある」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と答えた割合が高いため、キャリア教育の充実をはかり、自己肯定感を礎として将来を見据えていくことが、これからの課題と考えます。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・ＩＣＴ機器を活用し、児童一人ひとりに合わせた授業づくりや仲間とともに学び協働する授業づくりに取り組みます。
- ・国語の学習では、読書を推進するとともに、日常生活や社会の事象と学んだことを関連づけて、論理的に意見を述べたり、目的や場面に応じて適切に表現したりする授業づくりに取り組み、読解力の向上を目指します。
- ・算数の学習では、思考力・判断力・表現力を伸ばすために、既習の内容をもとに問題を解決し、図やグラフ・資料等を提示し簡潔・明瞭・的確に考えを伝え合う活動を取り入れながら、学力を高める授業を行います。
- ・理科の学習では、生活経験や学習内容をもとに、実感を伴った深い学びとなる授業づくりに取り組みます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・朝食の摂取、睡眠時間の確保、家庭での読書や学習を通じて、児童の安定した生活習慣づくりを引き続きお願いします。
- ・生活のリズムを整え、ゲームやテレビ、スマートフォン等の使用に関する「家庭ルール」を決めて、しっかりと守らせましょう。